

# 市民ケーン (Citizen Kane) 原語・日本語字幕付き

観賞日 2026年6月22日 上映時間 119分

## 【概要】

制作 1941年 アメリカ  
監督 オーソン・ウェルズ  
脚本 ハーマン・J・マンキーウィッツ、  
オーソン・ウェルズ  
音楽 バーナード・ハーマン  
撮影 グラッグ・トーランド  
出演 オーソン・ウェルズ (新聞王ケーン)、ジョゼフ・コットン (リーランド)



## 【あらすじ】

1941年、フロリダにある巨大な城ゼナドゥー。城の主で新聞王のケーンが死亡する。彼が最後に言い残した言葉は「バラのつぼみ」。ケーンの波乱万丈の生涯を綴ったニュース。彼の生涯を理解するキーワードを「バラのつぼみ」と考えた制作者はその謎を解くためにトムソンに生前ケーンと縁のあった人物を訪ねさせる。トムソンは後見人のサッチャー、マネジャーのバーンステイン、友人のリーランド、2番目の妻スーザン、執事のレイモンドなどと面談する。宿賃代わりにもらったポロ金鉱から大量の金が発見され、25歳のケーンは世界でも指折りの資産家になる。経営不振の新聞社を再建したケーンはマスコミ界に君臨するケーン帝国を築く。大統領の姪のエミリーと結婚、自身も政治の道を目指す。歌手のスーザンとの浮気が発覚し夫人とは2年で離婚する。その後、スーザンと結婚し彼女のためにゼナドゥーを建設する。しかし、そのスーザンとも別れ最後は孤独のうちに世を去った。結局、トムソンは「バラのつぼみ」の謎が解けないままゼナドゥーを去る。その後、ガラクタとして焼却処分された子供の頃に遊んだソリ。そこに書かれていた文字は・・・。

映画史上に燦然と輝く伝説の名作。若き日のオーソン・ウェルズの才能がほとばしる作品。

## 【解説】

### ■ポイント

#### ●新聞王ハースト (1863年～1951年)

- 本名ウィリアム・ランドルフ・ハースト。

父親が所有していた新聞社を譲り受け、数多くの企業を買収、全盛期には28社の新聞社、18社の雑誌社を傘下に収めるコングロマリットを経営し、メディア帝国を築いた。

- また、下院議員、ニューヨーク市長を歴任し政治家の道歩んだ時期もあった。
- 本作のケーンモデルとされているハーストは本作制作当時まだ存命であり本作の公開を妨害した。そのためか、本作は第14回アカデミー賞に9部門ノミネートされながらも脚本賞1部門の受賞にとどまった。

#### ●評価

映画史上最高の作品との呼び声が高く、アメリカ映画協会が選ぶ、アメリカ映画ベスト100の1位に選出される。

### ■見どころ

#### ●当時25歳の監督・脚本家・主演俳優のオーソン・ウェルズの才能

- 主人公ケーンの人物像をざっと知らせ、謎を提起する回想シーンから始まる巧みなシナリオ
- ローアングルと長回しを多用した当時としては斬新な撮影手法